

免疫制御の基盤的研究と臨床応用

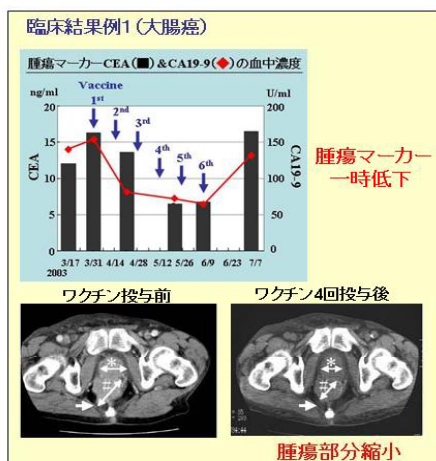
(第一病理 教授 佐藤昇志)

研究内容の説明：病理学は医学を統括する学問であり医学の根幹をなします。私たちは実証的な機能病理学を中心として、特に癌における免疫病態の解析をこれまで行ってきました。すなわち癌の抗原性とこれに対する生体免疫応答を様々な角度から検討しており、最新の技法を用いて研究を続けています。

免疫制御機構の解明

がん

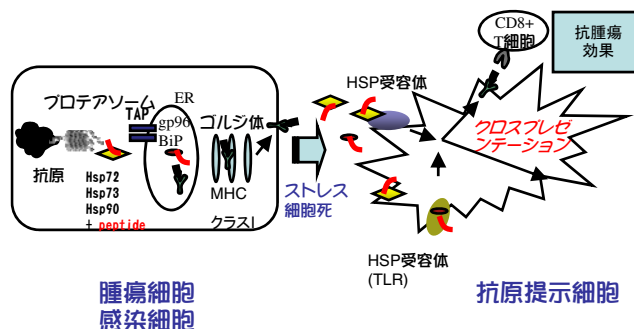
癌ワクチンの細胞障害機構と臨床試験



免疫とストレス応答

熱ショック蛋白と免疫応答

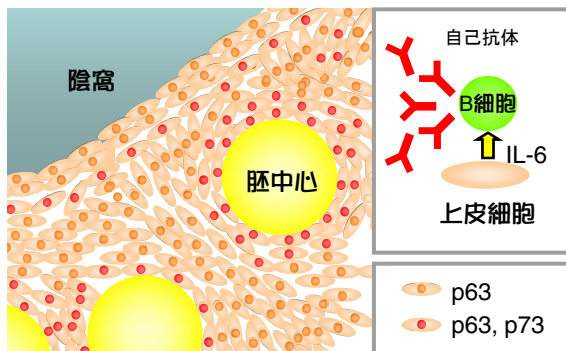
自然免疫と獲得免疫をつなぐHSP シャペロン
—— クロスプレゼンテーションによる免疫制御 ——



免疫とトレランス

リンパ球-間質相互作用の病理

掌蹼嚢胞症における扁桃リンパ上皮共生異常



フォールディング病(プリオン病等)

ポリグルタミン病の制御機構

